キラリな人
SHINY PERSON

澤貴廣（さわ たか ひろ）さん

学校教育学部
自然系コース2年

平成3（1991）年東京都生まれ。22（2010）年に入学。今年3月の東日本大震災の発生後、ひょうごボランタリープラザのスタッフとともに宮城県で炊き出しに参加。続いて、め組JAPANの一員として石巻市で2度にわたって支援活動に携わった。大学では講演会を開き、被災地の状況を伝え、自身の活動を報告。そのかいあってボランティアを志願する学生が増えつつあるという。

⬆石巻で支援活動を共にした大学の友人5人と（左から2人目が澤さん）。「近いうちに全員で再訪したいです」

誰かの役に立てているのなら自己マンでもいいと思います

3月11日、14時46分。東京に帰省する車内にいた。「静岡辺りで止まってしまって8時間も閉じ込められました」。実家でテレビの震災報道を見ているうちに、居ても立ってもいられなくなり、懇意にしている姫路のNPO法人に電話を掛けた。

昨春の入学以来、キャンプの指導員など子ども相手のボランティア活動に積極的に参加してきた。中学、高校では野球に打ち込み、プロ入りを真剣に考えた時期もあったという。「大学でも続けるつもりでしたが、硬式野球部がなくて断念しました。その代わり、大学4年間は野球では得られない経験を積み、多くの人と出会って自分を成長させたいと思いました。それがボランティア活動だったのです」

帰省してたった4日で学生寮に戻り、姫路で支援物資の仕分けを手伝った後、25日から約1週間、復興活動サポートチーム※「め組JAPAN」の一員として宮城県石巻市に滞在。トラックで避難所周辺の家々を回り、衣類や食料などを配った。「避難所は満員のため、家が無事だった人は受け入れてもらえず、しかも物資が十分に行き届いていませんでした」

ゴールデンウイークに入り、大学の友人5人を誘って再び石巻へ。被災家屋の泥のかき出しでは、がれきの中から汚れたアルバムや子どものおもちゃなどが出てきて、幾度となく涙がこぼれたという。

「被災地でもいろいろな人と出会い、勉強させてもらいました。そう思うとボランティア活動って自己満足なのかと。でも、それで誰かの役に立てるのなら、自己マンでもいいですよね」

め組のユニフォームである青いジャンパーには、被災者からの感謝の言葉が書かれている。「石巻の人たちのことはずっと気になります。これからも時間を見つけては出向きたいです」。本格的な復興支援はこれからが本番。ジャンパーは、書ききれないほどの言葉で埋め尽くされていくことだろう。

※NPO法人MAKE THE HEAVEN（香川県）が立ち上げた復興活動チーム